

## 第6章 NRI富裕層推計2023

### ～富裕層増加のトレンドと注目セグメント～

野口 幸司<sup>1</sup>

#### 【要旨】

本稿では、野村総合研究所（以下、NRI）が2025年2月13日に公表した2023年の日本の富裕層・超富裕層の推計結果を基に、富裕層増加のトレンドと注目セグメントについて考察する。

まず、NRIの2023年の富裕層推計から富裕層市場の現状や富裕層増加の要因・背景を示すとともに、今後の富裕層の推移について分析する。現在、富裕層の世帯数や保有純金融資産額は拡大基調にあり、特に2021年から2023年にかけて超富裕層、富裕層、準富裕層の世帯数が増加している。これは、底堅い株高に象徴される好況を背景としたリスク性資産の価値増加、社会構造の変化が影響していると考えられる。

次に、日本の富裕層の特殊性について国際比較も含めながら紹介する。世界的に富裕層は増加傾向にあり、年平均成長率は4.5%ペースで増加している。日本の富裕層に焦点を当てると、世帯当たり保有純金融資産額は小さいが、その背後に金融資産の3倍近い不動産を有していることが特徴的である。また、保守的な傾向もみられ、デジタルアセット等への新たな展開は時間を要する可能性があると考えられる。

続いて、近年変わりつつある富裕層の注目セグメントについて整理する。新しい価値観を持った「いつの間にか富裕層」や「スーパーパワーファミリー」等の富裕層が身近に出現している。「いつの間にか富裕層」はマス層に近い消費・金融行動が特徴であり、金融機関がマネタイズしていくには非常に工夫が必要である。また、「スーパーパワーファミリー」は合理的な判断軸で行動をすることが特徴であり、消費をけん引するポテンシャルを十分に秘めていると考えられる。

富裕層・超富裕層の増加に伴い、資産構成や資産形成の方法も多様化している。資産運用ニーズの背景にある世帯構成やキャッシュフロー、ライフスタイルに対する理解を深めると同時に、さらなるデジタルチャネルの活用や顧客管理の高度化が求められる。

#### 1. はじめに

野村総合研究所（以下、NRI）では、2005年から20年にわたり各種統計等から「日本の純金融資産保有額別の世帯数と資産規模」を推計している。本稿では、2025年2月13日に公表した2023年の日本の富裕層・超富裕層の推計結果<sup>2</sup>を基に、富裕層増加のトレンドと注目セ

<sup>1</sup> 株式会社野村総合研究所金融コンサルティング部シニアプリンシパル

<sup>2</sup> 2025/2/13 ニュースリリース ([https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/20250213\\_1.html](https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/20250213_1.html))

グメントについて考察する。まず、第2節ではNRIの2023年の富裕層推計から富裕層市場の現状や富裕層増加の要因・背景を示すとともに、今後の富裕層の推移について分析する。次に、第3節では日本の富裕層の特殊性について国際比較も含めながら紹介する。続いて、第4節では近年変わりつつある富裕層の注目セグメントについて整理し、最後に第5節で富裕層の現状と今後について論考する。

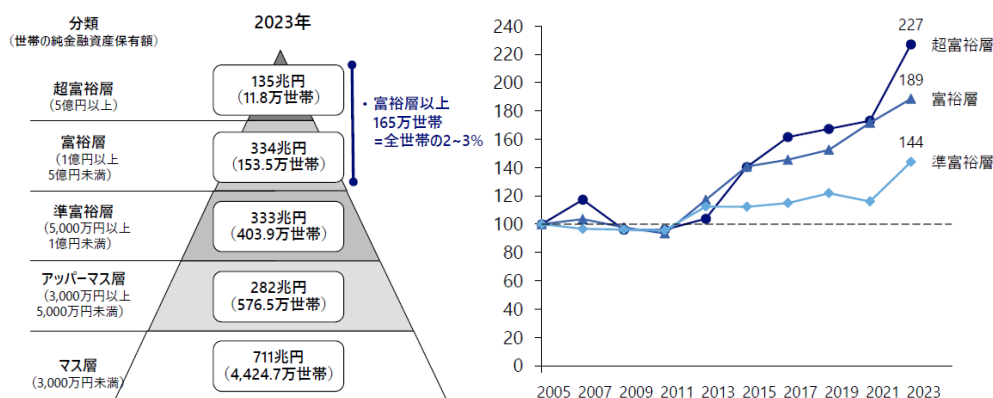
## 2. NRI富裕層推計2023

### (1) 富裕層市場の現状

NRIが2025年2月13日に公表した2023年の「日本の純金融資産保有額別の世帯数と資産規模」では、日本の富裕層・超富裕層の世帯数を165万世帯（全世帯の2～3%）と推計しており、2005年以降、最多となっている。世帯の純金融資産保有額が1億円以上5億円未満を富裕層、5億円以上を超富裕層と定義している。富裕層・超富裕層の世帯数は長期的に増加傾向にあるが、近年では、将来富裕層になる可能性のある準富裕層の世帯数増加率も大きく上昇していることが分かる（図表1）。

図表1

富裕層推計結果（2023年）（左）、準富裕層以上の世帯数増加率（2005年=100）（右）



(出所) 国税庁「国税庁統計年報書」、総務省「全国家計構造調査 (旧全国消費実態調査)」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」、東証「TOPIX」およびNRI「生活者1万人アンケート調査」、「富裕層アンケート調査」等よりNRI推計

図表2は、NRI富裕層推計に利用した各種資料・情報と利用方法である。日本の世帯数の将来推計 (国立社会保障・人口問題研究所)、資金循環統計 (日本銀行)、全国家計構造調査 (総務省)、人口動態調査 (厚生労働省)、国税庁統計年報書 (国税庁)、TOPIX等の指標 (日本取引所グループ) 等の行政各所の統計資料に、NRIが独自で行っているNRI生活者1万人調査 (金融編) やNRI富裕層アンケート調査を加え推計することで精度を向上させている。

図表2 NRI 富裕層推計に利用した各種資料・情報と利用方法

#	名称	調査年※	主な集計内容	NRI推計での方法
1	日本の世帯数の将来推計 (国立社会保障・人口問題研究所)	2023	・世帯数および将来推計 ・一人世帯など構成別の世帯数も推計	✓ NRI富裕層推計における総世帯数のコントロールトータルとして利用 ✓ 5年毎の国勢調査が未実施の年については、当該研究所による推計結果の世帯数であることに留意
2	資金循環統計 (日本銀行)	2023	・資金供給および資金需要について主体別・項目別に集計	✓ NRI富裕推計における総純資産のコントロールトータルとして利用
3	全国家計構造調査 (総務省)	2019	・主に日本の家計における貯蓄や負債、収入や支出などを、貯蓄階層別や支出階層別、世帯構成別等に項目別に集計	✓ 世帯金融資産の把握、および、株価上昇の影響を受けるリスク性資産の保有比率などを把握するために利用 ✓ サンプルサイズが約5万件と限定的であるため、統計学的な信頼性については留意
4	人口動態調査 (厚生労働省)	2023	・出生率や死亡率等を年齢別に集計	✓ 特に高額資産保有者について、相続税納付状況と年齢別死亡率等から、高額金融資産の保有者数を概算
5	国税庁統計年報書 (国税庁)	2023	・相続税を納税した人の割合および納税金額、資産種別について集計	
6	NRI生活者1万人調査(金融編)	2022	・日本人の「ためる」「備える」「借りる」「使う」といった金融意識・行動、および日常生活実態について調査・集計	✓ 特にマス層を中心に純金融資産額別の世帯比率や資産内訳(リスク性資産比率等)を把握 ✓ 配布・回収により日本の縮図となるようサンプル回収しているが、サンプルサイズが約1万件であることに留意が必要
7	NRI富裕層アンケート調査	2019	・非上場企業オーナーに対して、事業とプライベートを別に、資産承継等のオーナー特有の問題意識も含め、金融意識・行動について調査・集計	✓ 高額資産保有者について、純金融資産別の世帯比率や資産内訳(リスク性資産比率等)を把握 ✓ サンプルサイズが約2千件であることに留意
8	TOPIX等の指標 (日本取引所グループ)	2023	・株価指標等の推移を公開	✓ 純金融資産に影響を与える数値を加味して純金融資産の増減を推計

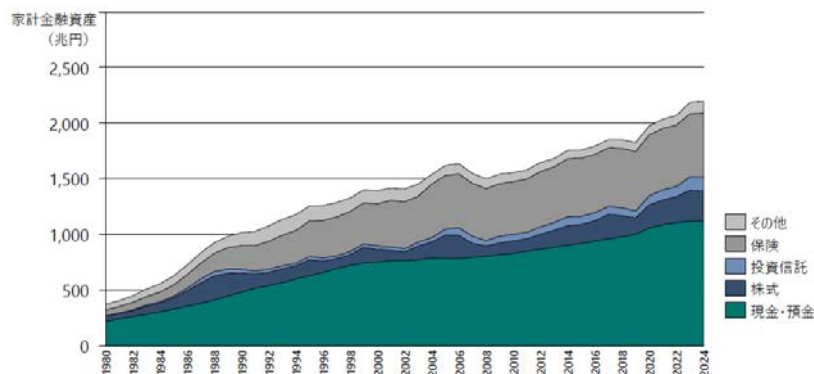
(注) NRI の富裕層推計では、調査時期を合わせるために過去調査結果等を用いているものもあることに留意。

(出所) 筆者作成

## (2) 日本の家計金融資産

日本の家計金融資産については、右肩上がりに増加しており、特に直近は高い増加率を示している。2022年から2024年にかけては、大きく増加し2,000兆円を超えていることが分かる(図表3)。2024年の内訳を見ると2,200兆円の家計金融資産のうちの1,000兆円強、約半分が現金・預金、約18%が株や投資信託等のリスク性資産となっている。これはアメリカやヨーロッパの現金・預金の割合が約2割から3割であることから、現金主義の傾向がまだまだ根強いのが日本の特徴であると考えることができる。

図表3 家計金融資産と内訳の推移



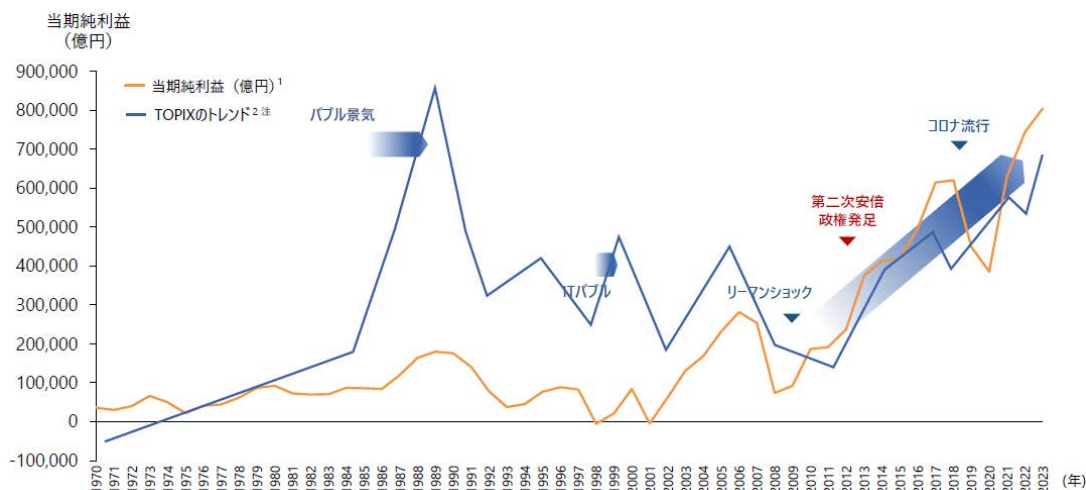
(出所) 資金循環統計 (日本銀行)

## (3) 富裕層市場の増加の要因

## ① 好調な企業業績を背景とする株高

富裕層の世帯数、総資産額の増加は、近年の株高が1つの要因であると考えられる。1980年後半以降のバブル景気は、企業業績の良化を伴わないバブルであったが、近年の株高は、好調な企業業績等を背景としており、この経済的要因を中心に富裕層が成長してきたという点が大いと考えている（図表4）。

図表4 日本の企業の当期純利益と TOPIX（全産業、1970年～2023年）のトレンド



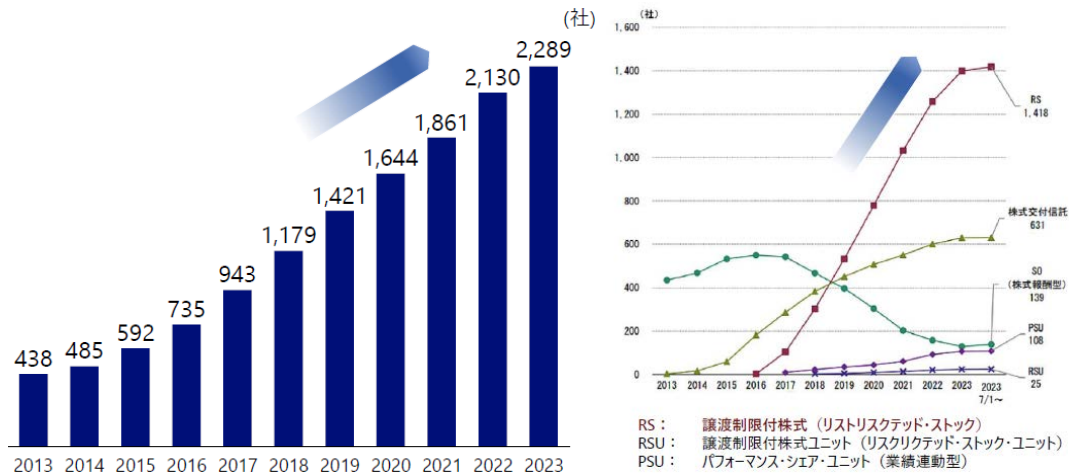
(注) TOPIXの数値をもとに推移・傾向をイメージ図にしたもの。

(出所) 財務省「法人企業統計調査」、東証「TOPIX」よりNRI作成

## ② 高額役員報酬の増加と株式報酬制度の浸透

好調な企業業績を背景に高額報酬の対象となる役員数も増加している。株式会社東京商工リサーチの調査によると、最近開示が義務づけられている1億円以上の報酬を得ている上場企業役員数は、2023年度には1,000人を超え最多を更新している。非上場企業については、もっと多くの役員が1億円以上の報酬を得ていることが推測される。高額役員報酬を得ている上場企業役員数の増加については、役員向けの株式報酬制度の導入も一つの要因となっている。同制度を導入する企業は増加傾向にあり、過去10年で5倍に伸長している。また、同制度の種類の推移を見ると、譲渡制限付株式が顕著に増加していることがわかる。同株式を保有している企業の役員は、退任時に一気に数億円という報酬を獲得できる（図表5）。

図表5 役員向け株式報酬制度の導入企業数推移（左）、  
役員向け株式報酬制度の種類の推移（右）



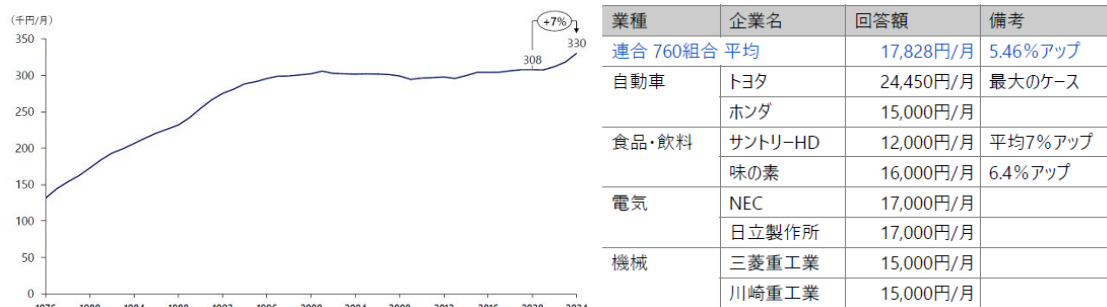
(出所) 日本経済団体連合会「役員・従業員へのインセンティブ報酬制度の活用拡大に向けた提言」(2024年1月16日)

### ③ 賃金の増加と加速する女性の社会活躍

上場企業の役員のようなハイエンドなビジネスパーソンではない人々もそれなりに稼ぐような時代になってきた。2020年から2024年にかけて、一般労働者の所定内給与額は7%上昇、2025年の春闘では、平均5.46%と大幅なベアアップ結果となった。かなり賃上げが進んでおり、特に若い人材の給与を上げないと人材が獲得できないという時代となっている(図表6)。

図表6

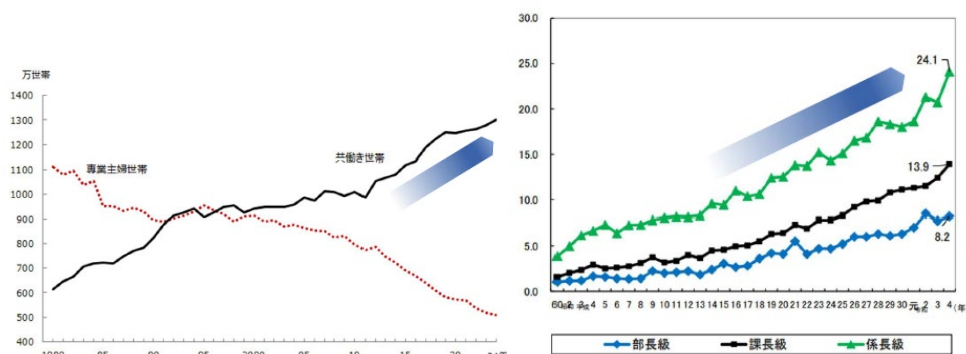
一般労働者の所定内給与額の推移(左)、2025年春闘における主要企業の回答結果(右)



(出所) (左) 厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査速報」、(右) 各社報道資料等より NRI 作成

世帯単位で考えると、2010年以降、共働き世帯が大きく増加しており、一人ではなく、二人で働くのが当たり前の時代になってきている。一人で1,000万円以上を稼ぐよりも、二人で2,000万円、3,000万円を稼ぐという世帯構造に変化してきている。また、管理職に占める女性の割合も確実に増加してきていることも、世帯年収アップの一因となっている(図表7)。

図表7 専業主婦世帯と共働き世帯の推移（左）、  
役職別管理職等に占める女性割合の推移（企業規模100人以上）（右）

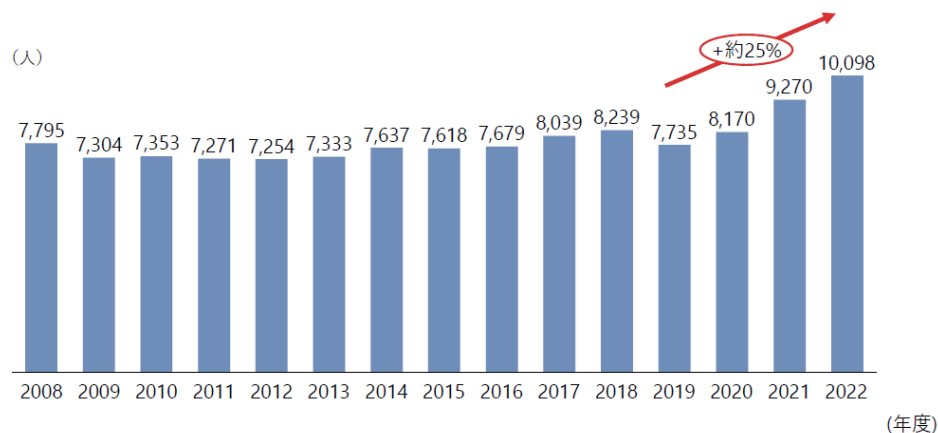


(注) (左) 2017年以前の「専業主婦世帯」の妻は非就業者（非労働力人口及び完全失業者）。  
(出所) (左) 労働政策研究・研修機構「早わかりグラフでみる長期労働統計「専業主婦世帯と共働き世帯」」、(右) 厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課「雇用の分野における女性活躍推進等に係る現状及び課題」（2024年6月29日）

#### ④ 相続による資産の取得

富裕層世帯増加については、相続もその要因の一つとして考えられる。相続財産が3億円を超える被相続人数の推移は増加傾向にあり、特に近年はその傾向が顕著で、2019年から2022年にかけては約25%増加、2022年の相続財産が3億円超えの被相続人は10,098人に達している（図表8）。

図表8 相続財産3億円超えの被相続人の推移

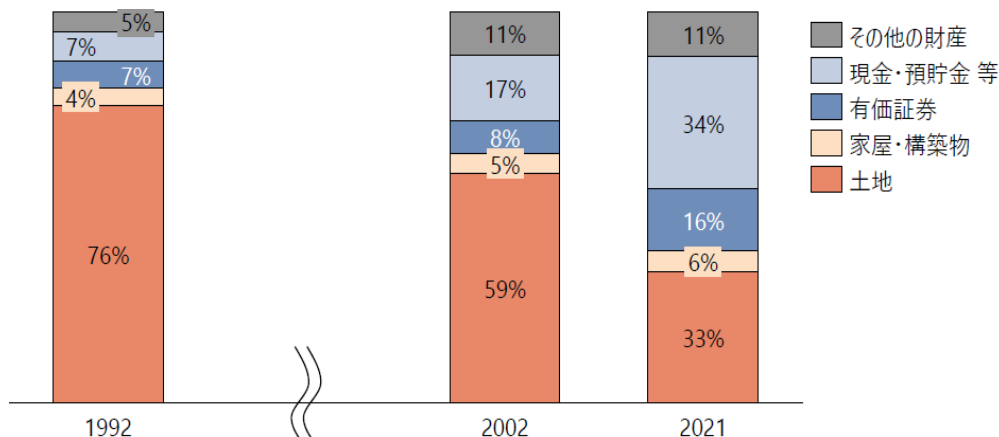


(出所) 国税庁「統計情報」課税価格階級別申告状況

また、相続資産の内訳もかなり大きく変わってきている。1992年は土地や家屋・構築物等の不動産が約8割を占めていたが、2021年は、不動産が約4割に減少する一方で、現金・預貯金や有価証券が全体の約半分を占める水準になっている。2015年に相続税の基礎控除の水準が引き下げられたことも現金等が増加した要因となっている（図表9）。不動産の小口化・流動化が進むなか、現金化した地方の不動産が都心在住の子ども世代に相続されると

いったケースが増加している。

図表 9 相続資産の内訳の推移



(注) その他の財産：事業(農業)用資産、家庭用財産、その他の財産。また、2015年に基礎控除の水準が引き下げられたことに留意。

(出所) 国税庁「統計情報」

NRIの相続資産の地域間移転の推計によると、相続資産の発生ポテンシャルが大きいのは地方圏であり、約330兆円と首都圏の約2倍となっている。首都圏には、地方圏、関西圏、名古屋圏から約50兆円の相続資産が流れ込んできている。地方圏から43兆円が首都圏に流れ込むと考えると、かなり影響のある金額であると考えられる(図表10)。

図表 10 相続資産の地域間移転推計(2021~2030年の10年間の推計)



(出所) NRI パブリックマネジメントレビュー2022年2月号「相続市場に眠っているアンメットニーズを満たすために」(国税庁、国立社会保障・人口問題研究所、総務省統計局、厚生労働省、NRI 生活者1万人アンケート(2019年)等よりNRI推計)

### ⑤ 富裕層の職業・地域分布

NRIの推計では、金融資産5億円以上の超富裕層の半数以上は上場・非上場企業オーナー

となっており、金融資産 1 億円から 5 億円未満の富裕層については、上場・非上場オーナー、次いで地主、上場企業役員、弁護士・医者・会計士等のプロフェッショナルが、一定の割合を占めている。

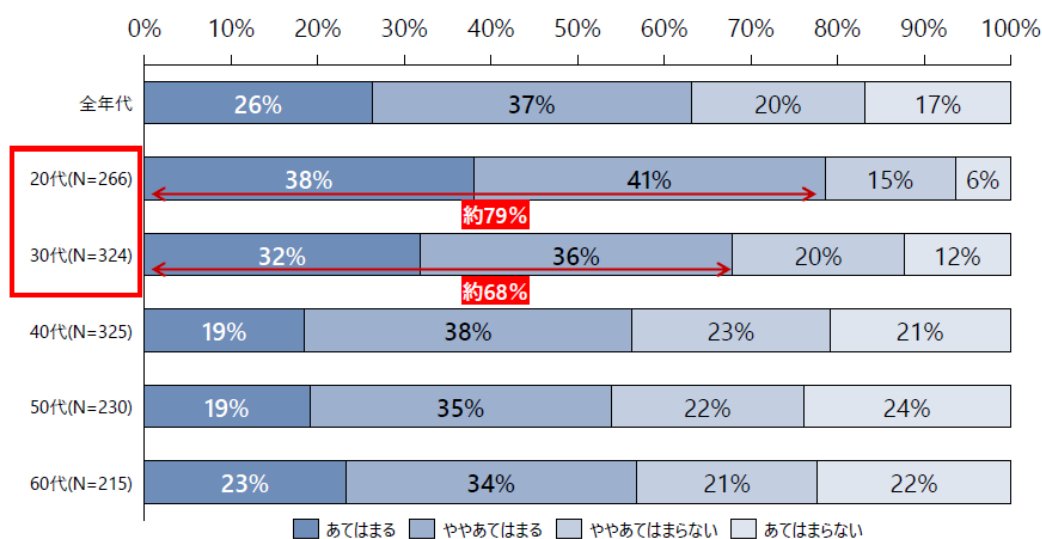
また、地方分布（純金融資産）で見ると超富裕層の約3分の2、富裕層の約半分は首都圏に分布していることが分かる。超富裕層では、三大都市圏に8割以上分布しているのが実態であると推計される。

#### (4) 今後の富裕層拡大のポテンシャル

富裕層は今後どのように推移していくのか述べてみたい。2024 年 1 月から開始された新 NISA 制度の影響で、投資経験者の増加スピードは加速している。

また、証券口座保有者のうち、資産運用を当然と考えている割合は全体で約 6 割となっている。20 代・30 代に限定すると 7~8 割となり、若年層にも資産運用が定着しつつあると考えられる（図表 11）。今後も株高のような経済的な要因を背景とした富裕層の増加は続いていく可能性が高いと推測される。

図表 11 証券口座保有者の資産運用に対する考え方（年代別）



**【設問】**

Q8：あなたは、仕事を始めたり、結婚して家庭を持った際、資産を運用することは当然のことだとお考えでしたか。[SA]

(注) 回答者セグメントの単純平均値。

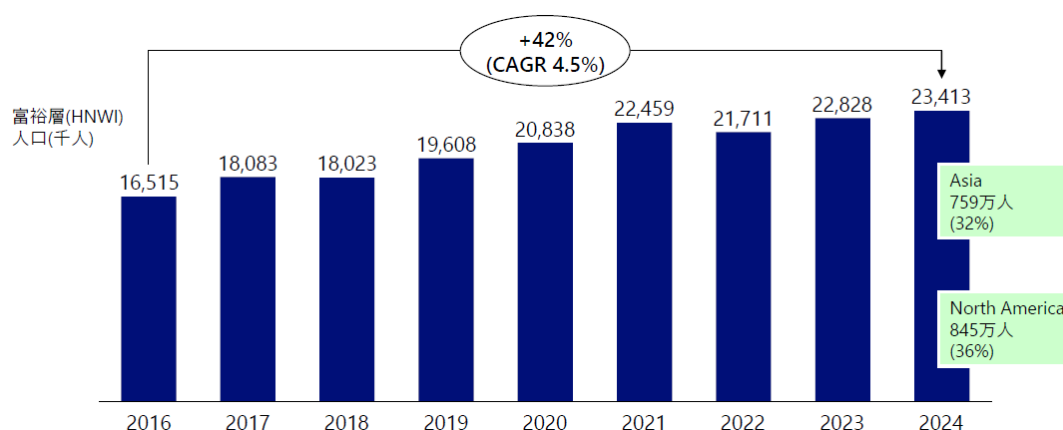
(出所) 直近の証券口座開設調査結果（2022/1）より NRI 作成

### 3. 日本の富裕層の特殊性

#### (1) 世界の富裕層人口

はじめにグローバルな視点で世界の富裕層の推移を確認する。2024年の世界の富裕層は約2,341万人で、年平均成長率は4.5%ペースで増加している。北米が富裕層全体の36%、アジアが32%、北米とアジアで全体の約7割を占めている。北米の年平均成長率は6.4%と非常に大きい伸びとなっている。直近では2022年に起きたウクライナ侵攻の影響で富裕層数が減少した。また、2018年の下落については米中の関税摩擦やブレクジット等、様々な経済的要因が関係していると考えられる（図表12）。

図表 12 世界の富裕層数の推移



(注) 富裕層の定義は100万ドル以上の金融資産を保有する人。(High Net Worth Individual : HNWI)  
CAGR (Compound Annual Growth Rate : 年平均成長率)。

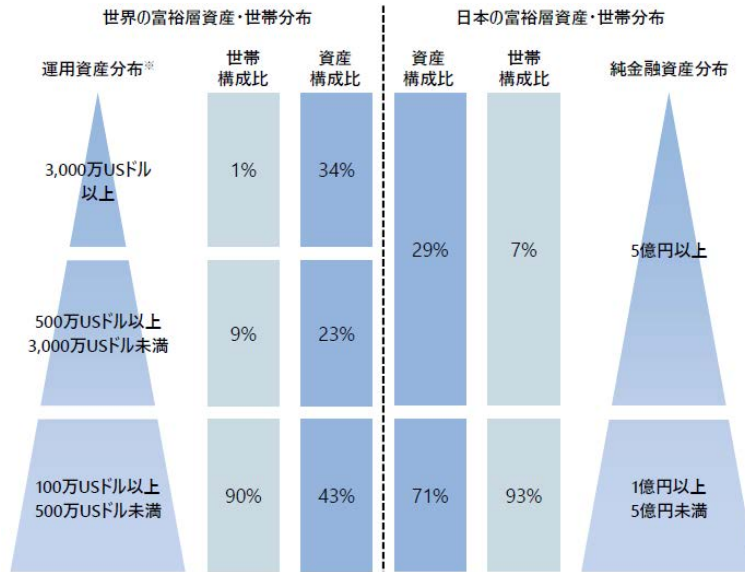
(出所) Capgemini “Financial Services Analysis 2025” より作成

#### (2) 日本の富裕層の特徴

UBSの「Global Wealth Report2023」の各国の100万ドル超え純資産保有者数推計によると、日本のミリオネア数は世界で4番目に多いが、2000年から2022年の増加率は各国と比較し、かなり低い水準となっている。一方で、2027年は富裕層数が伸びると予測されている。

図表 13 は世界と日本の富裕層の資産分布を示している。世界では、3,000万 US ドル以上の超富裕層が資産構成比の約3分の1 (34%) を占めるのに対し、日本では5億円以上の層でようやく3割 (29%)、1億円以上5億円未満が7割 (71%) となっている。世界では非常に貧富の差が激しく、富が偏在しているのが特徴であるのに対し、日本は、小粒な富裕層がそれなりに多いということが特徴となっている。

図表 13 富裕層の資産分布



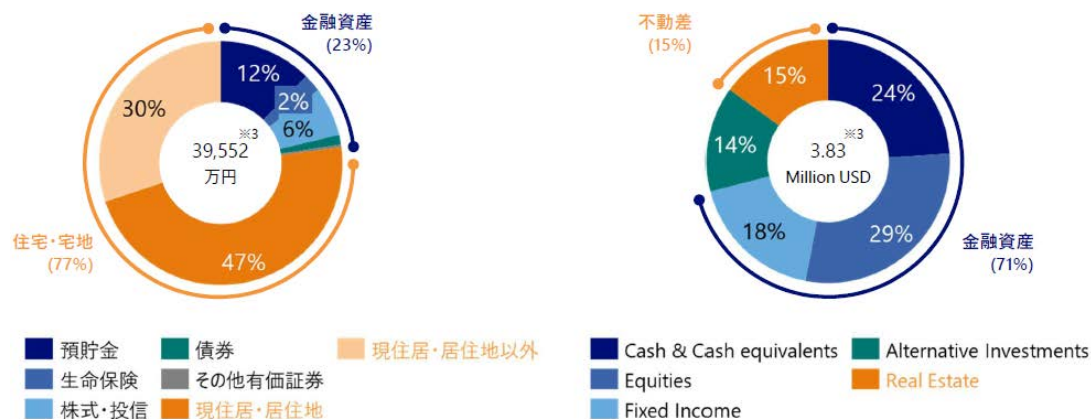
(注) 投資可能なストック資産額の分布 (HNWI の定義に準ずる)。

(出所) NRI 富裕層推計 (2025 年 2 月)、Capgemini “World Wealth Management 2022” より NRI 作成

また、世界と日本の富裕層の資産構成についても大きな特徴がある (図表14)。日本の保有純資産上位1%の平均保有資産額は約4億円であり、その内訳は、金融資産が約4分の1、残り4分の3が住宅・宅地等の不動産の保有となっている。世界の運用資産HNWI平均と比較し、際立って不動産の比率が高くなっている。また、世界の運用資産HNWI平均では金融資産のなかでもキャッシュの割合が非常に多い点が特徴的である。このような特徴を踏まえて金融機関やデベロッパー等は、富裕層を対象とした戦略を練ることが非常に重要であると考えている。

図表 14 富裕層の資産構成

日本の保有純資産上位 1%平均 (左)、世界の運用資産 HNWI 平均 (右)



(注 1) (左) 保有純資産 (純金融資産 + 住宅・宅地) が 2 億 2,431 万円以上の 510 世帯。

(注 2) (右) 運用資産 1 Million USD 以上。

(注 3) 平均総資産額(日本) / 平均運用資産額(世界)。

(出所) 総務省「2019 年全国家計構造調査」、Capgemini “World Wealth Management 2022” より NRI 作成

### (3) 投資対象の多様化

HNWI の ESG 投資に対する意識について世界と比較すると、日本の富裕層は ESG 投資に対する興味・関心が低く、特に 40 歳以上の富裕層の関心率は世界平均の半分以下の水準になるとの指摘もある。また、NRI 生活者 1 万人調査 (金融資産 5,000 万円未満/以上で分析) では、日本の富裕層が国内株式、投資信託、国内債券、外貨預金といった伝統的なリスク性資産にかなり投資をしている一方で、暗号資産や FX といった新しい商品には二の足を踏んでいることが指摘されている。

## 4. 富裕層の注目セグメント

### (1) 富裕層のセグメント

図表15は、富裕層のセグメントを示しているが、富裕層には様々なタイプが存在している。従来、銀行、証券会社、保険会社等は、富裕層のなかでマジョリティであった非上場企業オーナー、地主、地方の名家・名士をビジネスの対象としていた。しかし、近年は、「いつの間にか富裕層」や「高年収夫婦：パワーファミリー」等の一般給与所得者が新しい富裕層として存在感を示してくるだろうと考えている。

図表 15 富裕層のセグメント

タイプ	#	人物像	特徴
フローリッチ	高所得者	1 大企業役員	<ul style="list-style-type: none"> <li>もともと高年収、役員昇任でさらに加速</li> <li>リテラシーは高いが忙しくて時間が無い。不動産投資に積極的な方も</li> </ul>
	<b>注目セグメント②</b>	2 高年収夫婦 (パワーファミリー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュインが多いが、消費性向も高い</li> <li>リテラシーは高いが忙しくて時間が無い・お金が貯まる</li> </ul>
	中所得・貯蓄志向	3 こつこつ貯金して定年前	<ul style="list-style-type: none"> <li>保守的で運用は横立。住宅ローン完済、子供独立でキャッシュフロー改善</li> <li>リテラシーは中程度、定年が近くそろそろ老後を考え始める</li> </ul>
		4 生活に余裕がある 独身	<ul style="list-style-type: none"> <li>賃貸暮らしで支出が少ない。リテラシー中程度、資産運用の時間もたっぷり</li> <li>投資には興味を持っており、FXや暗号資産も</li> </ul>
ストックリッチ	事業・不動産 資産持ち	5 非上場企業オーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業性資産を持ち、法個一体。お抱えの税理士・会計士</li> <li>余裕時間はあるが、承継に悩む</li> </ul>
		6 地主	<ul style="list-style-type: none"> <li>不動産信仰。金融リテラシーは高くない</li> <li>相続が迫っており、承継に悩む</li> </ul>
	<b>従来の富裕層</b>	7 地方の名家・名士	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方で事業性資産・土地を持っている、お殿様気質</li> <li>子どもは進学・就職で都会へ、相続に悩む</li> </ul>
	金融資産持ち	8 退職者・相続人	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時的に大金が入り、管理・運用に悩む。時間的余裕あり運用勉強中</li> <li>リテラシーは高くなく、金融機関とは決済、貯金、ローンの付き合い</li> </ul>
	<b>注目セグメント①</b>	9 「いつの間にか」 富裕層	<ul style="list-style-type: none"> <li>こつこつ積み立てていたら株価上昇で金融資産が増加</li> <li>一般給与所得者（退職含む）が多く、マス層に近い金融意識・行動</li> </ul>
		10 親リッチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>相続が見込まれる親の資産が高額、その資産を守りたい</li> <li>生活費や居住費、車の購入等において親から援助、フローにも余裕</li> </ul>
		11 IPO長者	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPOにより一時的に大金が入り、管理・運用に悩む</li> <li>経営・事業に没頭、資産運用にあまり関心がなし</li> </ul>

(出所) NRI 作成

## (2) 富裕層の注目セグメント「いつの間にか富裕層」

図表 16 は、注目セグメントである「いつの間にか富裕層」の概要を示している。リーマンショックの影響で日経平均株価は、終値ベースで約 7,000 円まで下落しバブル後最安値となったが、そこからアベノミクスを経て、現在 5 万円台まで上昇している。この間、資産を日本国債だけに投資していた場合、リターンはほとんどないが、企業型確定拠出年金 (401(k)) を利用し日本株等の株式に投資していた場合、資産が 2 倍、3 倍なったという一般社員が増加した。

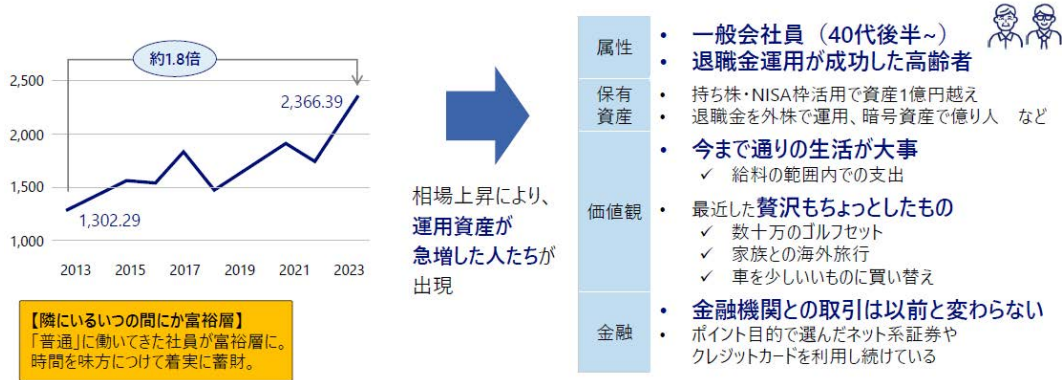
さらに、最近持ち株制度を導入している企業も多く、株価上昇の後押しもあり、気がついてみたら保有している自社株が大きく上昇したケースも多い。企業の役員になると自動的に自社株を保有するようになるため、日経平均が 4 万円、5 万円を突破する前に上場企業の役員になった場合、自身の退職金が自社株に代わっており、気がついたら退職金が 1 億円を超えるケースも多いのではないかと推測される。

また、退職金を株式や投資信託等に投資し、株式相場の上昇によって運用資産が急増し富裕層仲間入りしたケースもかなり増えてきている。NRI 生活者 1 万人調査 (金融編) では、金融資産 5,000 万円以上の会社員・公務員世帯については、40 代以上が 85% を占め、半数は大都市以外に在住しており、世帯年収についても高年収世帯だけでなく、700 万円未満の層が 4 割強を占めていると報告されている。

「いつの間にか富裕層」になった場合でも、生活水準や金融行動の価値観はあまり変えないという特徴がある。今までどおりの生活が大事であり、贅沢もあまりしない。金融機関や事業会社にとっては、そのスタイルを理解した上で、この層の眠っている資産をどうマネタイズするかということが必要となってくる。

図表 16

TOPIX のトレンド（各年末）（左）、「いつの間にか」富裕層になった人の特徴（右）



(注) (左) TOPIX の数値をもとに推移・傾向をイメージ図にしたもの。

(出所) (左) 東証「TOPIX」より NRI 作成、(右) 富裕層インタビュー（2022、2024）

### (3) 富裕層の注目セグメント「スーパーパワーファミリー」

もう1つの注目セグメントは、「スーパーパワーファミリー」である。これまで高年収世帯を「パワーファミリー」と称してきたが、それを上回るキャッシュフローを得ている「スーパーパワーファミリー」が出現してきている。NRIでは、世帯年収が3,000万円以上と定義しており、例えば大都市の大手企業に勤め、共働きをしている世帯等が当てはまる。この層は効率性、実用性、リスク管理を重視し、日常生活ではタイパ、いわゆる時間効率を優先している点が特徴である。1980年代はDINKs（ダブルインカム・ノーキッズ）という言葉が流行し、あえて子どもを持たない選択をするというようなスーパーパワーファミリーが多かったが、現在は子どもを持つケースが多いのも特徴である（図表17）。

図表 17 スーパーパワーファミリーの属性（世帯年収 3,000 万円以上）

属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>40代以降～</li> <li>大都市の大手企業共働き</li> <li>子どもを持つケースが多い</li> </ul>
価値観・消費意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>効率</b>」「<b>実用性</b>」「<b>リスク管理</b>」を重視</li> <li>日常生活では「<b>タイパ（時間効率）</b>」を優先</li> <li>お得な情報は<b>仲間内で共有・シェア</b></li> <li>仕事だけでなく、<b>家族の時間や教育を大切</b>にする</li> </ul>
お金周りの考え	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資・貯蓄に関心が高く、情報収集を日常的に行う</li> <li>資産運用は<b>ハビー層とライト層の2タイプ</b>存在                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ハビー層：<b>積極的に投資を行い、暗号資産などを持つ例も</b></li> <li>ライト層：<b>インデックス運用を中心に、積み立てで必要最低限の投資を実施</b></li> </ul> </li> </ul>

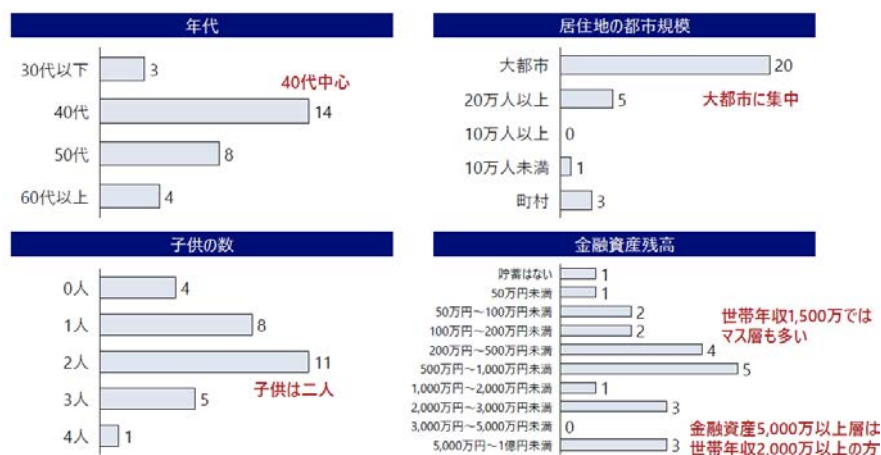
【合理的なスーパーパワーファミリー】  
1980年代のDINKsとは異なる価値観。子どもと一緒に「時間」を大切にし、そのための出費は厭わない。

(出所) 富裕層インタビュー（2022、2024）

図表18は、収入格差の小さい世帯年収1,500万円以上の世帯の属性を示しているが、40代中心、大都市在住、子ども二人が多いという結果が出ている。また、金融資産残高は、1,000万円未満が多くなっている。昔のように稼いだお金を自分たちのために使うというよりは、結婚して子どもがいて家族として暮らしている世帯が増えていると考えられる。最近では外資系企業の専門職や、日本企業でも大企業のエンジニア等に非常に高額な給与を支払うという傾向にあるため、そういった人々が共働きをし、世帯年収2,000万円、3,000万円を超えるような状況になっていると推測している。

また、支出意向が高いスーパーパワーファミリーは、こだわりを持ったリフォームや被服、タイパを高める家事サービス、子どもの将来のための教育費にお金をかける傾向が見られる。

図表 18 収入格差の小さい世帯年収 1,500 万円以上世帯の属性 (N=29)



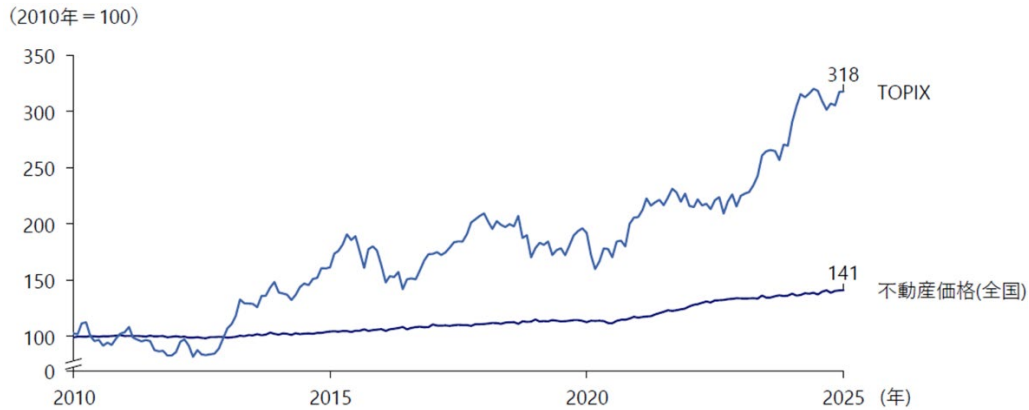
(出所) NRI 生活者 1 万人調査 (金融編) (2022 年)

#### (4) サラリーマン不動産投資家

最後に、今はまだ規模は大きくないが、サラリーマン不動産投資家も増えている点について述べる。不動産価格は、地価、建材費、工事費の高騰もあり上昇の一途をたどっている。ボラティリティが低く安定性がある面からも不動産が資産運用の一手段として認識され始めている。まだ浸透しきれていない不動産証券化商品に対して不動産の現物投資は堅調であり、賃貸住宅は2021年から2024年にかけて約28%上昇している。

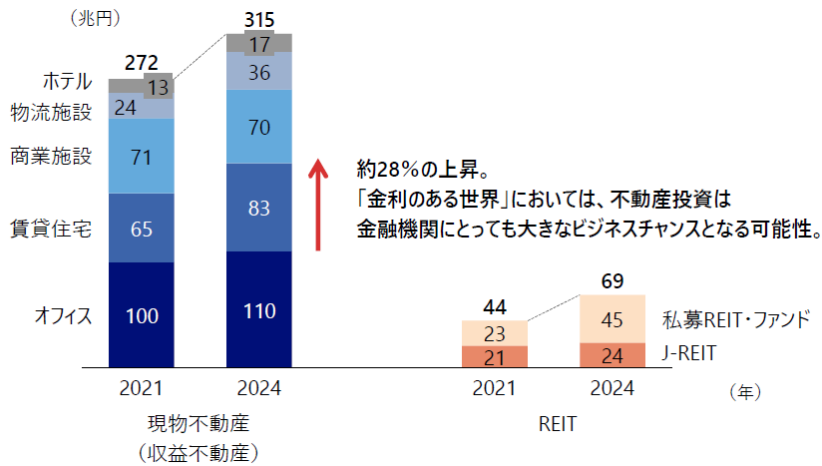
例えば、投資目的で東京の都心ではなく、郊外にある中古のマンションを買い、家賃収入を得て総収入を増やすという層が増えてきている。過去は不動産価格と家賃価格が比例していなかったが、最近では物価上昇の影響もあり家賃も上昇しているため、価格の低い中古マンションを買い、高い家賃収入を得ようとしていると推測される。このような層が今後富裕層や準富裕層になる可能性は十分にあると考えられる (図表19、20)。

図表 19 不動産価格、TOPIX 比較



(注) 空室による収入減や修繕費が必要になるといった、家主にとって収支が悪化するケースもあることに留意。  
 (出所) 東証「TOPIX」、国土交通省「不動産価格指数」より NRI 作成

図表 20 不動産投資の市場規模



(出所) 価値総合研究所・ニッセイ基礎研究所「わが国の不動産投資市場規模」、不動産証券化協会・三井住友トラスト基礎研究所「不動産私募ファンドに関する実態調査」より NRI 作成

## 5. おわりに

最後に本節では、まとめとして現状の富裕層の姿と今後について述べる。現在、富裕層の世帯数や保有純金融資産額は拡大基調である。特に、2021年から2023年にかけて、超富裕層・富裕層・準富裕層の世帯数は大きく増加した。バブル崩壊後の株価低迷期からコツコツと運用してきた資金が、時間を味方に結実し保有資産を拡大している。よって、貯蓄から投資への流れは加速すると予測され、潮目が変わりつつあると考える。

日本の富裕層に焦点を当てると世帯当たり保有純金融資産額は小さいが、その背後に金融資産の3倍近い不動産を有していることが特徴的である。また、保守的な傾向もみられ、デジタルアセット等への新たな展開は時間を要する可能性があると考えられる。

また、新しい価値観を持った「いつの間にか富裕層」や「スーパーパワーファミリー」等の富裕層が身近に出現している。「いつの間にか富裕層」はマス層に近い消費・金融行動が特徴であり、金融機関がマネタイズしていくには非常に工夫が必要である。「スーパーパワーファミリー」は合理的な判断軸で行動をすることが特徴であり、消費をけん引するポテンシャルを十分に秘めていると考えられる。女性の社会進出の加速や働き方の多様化に伴う就労機会の増大によって、今後の増加が見込まれる。

富裕層・超富裕層の増加に伴い、資産構成や資産形成の方法も多様化している。資産運用ニーズの背景にある世帯構成やキャッシュフロー、ライフスタイルに対する理解を深めると同時に、さらなるデジタルチャネルの活用や顧客管理の高度化が求められる。

#### 参考文献

佐藤有香（2022）「相続市場に眠っているアンメットニーズを満たすために」，野村総合研究所 NRI パブリックマネジメントレビュー2022年2月号。

価値総合研究所・ニッセイ基礎研究所（2024）「わが国の不動産投資市場規模」

Capgemini (2022), “World Wealth Report 2022”

Capgemini (2025), “Financial Services Analysis 2025”

UBS (2023), “Global Wealth Report 2023”